

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国⽴市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
基本目標(1)学習情報の収集・発信										
(1)-1	○生涯学習情報の集約	サークル・団体紹介	市民のサークル・団体情報を集め(掲載を希望する団体)、冊子やホームページで情報提供する。	生涯学習課	引き続き、冊子を市内公共施設16か所に設置したほか、市ホームページで情報を公開した。掲載している情報が古くなっていることから、令和5年度に一斉更新を行った。	市民のサークル・団体情報の提供ができた。また一斉更新により、より正確な情報の集約につながった。	掲載しているサークル団体より、市HPに電話番号を掲載することでサークルに関する問い合わせもあるが、営業等関係のない電話なども多々入っているとの声があった。	一斉更新により、サークル・団体情報を最新のものとすることができた。	B:令和4年度並みの成果であった	掲載申込書の提出方法の簡略化(窓口からメール申込)を実施する。
(1)-2	○生涯学習情報の集約 ○多様な手段での情報発信	生涯学習情報の集約・発信事業	市の生涯学習に関する情報を集約し、多様な手段で情報を発信する。	生涯学習課	引き続き、市HPのトップページのバナーに生涯学習関連施設を掲載している。	関連施設HPへのアクセスのしやすさが引き続き担保されている。	特になし。	市HPのトップページに公民館、図書館、財団3館のバナーを並べることで、生涯学習情報の発信が引き続き行われた。	B:令和4年度並みの成果であった	Instagramの開設など多様な方法で生涯学習情報を集約、発信していく。
(1)-3	○多様な手段での情報発信	公民館だより・図書室月報発行事業	公民館事業および公民館図書室の情報を提供するため、毎月1回広報誌を発行している。今後も公民館事業の発信および周知を図る。	公民館	公民館だより及び図書室月報を月1回発行した。公民館講座の参加者募集や講座参加者の声、講演要旨、サークル紹介、新着及び講座参考図書紹介等で紙面を構成し、広報紙のみを目的とするのではなく社会教育の学習資料としての発行物を制作。	公民館事業および公民館図書室の情報を毎月発行していることが市民に認知されており、広く情報を発信し、また多くの市民の執筆協力等を得ることができた。	毎月開催する「公民館だより編集委員会」では紙面の改善点の指摘と共に、公民館講座や施設利用の情報、講座参加者の声等を知ることができて、読み物として学習に役立っているとの声があった。	市民の声に基づき、より親しみやすく読みやすい紙面構成の工夫や、QRコードによるウェブ参加受付の増加など、学習参加への経路の利便性を改善した。	A:令和4年度より高い成果があった	公民館事業や公民館図書室についての情報提供について、講座等の実施報告(紹介)を今後開催の事業告知と関連付けて展開を図る。
(1)-4	○多様な手段での情報発信	図書館広報事業	図書館事業の情報を市報や館報、ホームページを使って広く周知し、利用を促進する。	図書館	図書館広報誌「いんふおめーしょん」を12回、YAペーパーを4回発行、くにたちの教育の中の記事の掲載を4回、図書館HP、X(旧Twitter)による広報を随時行った。	図書館事業に関する情報を様々な媒体を通して発信することで、利用の促進につながった。	特に、児童向けイベントについては市報や図書館広報誌などの紙媒体を見ての問い合わせが多かった。	市報やくにたちの教育等、記事の大きさに限りがある媒体においては、二次元コードを有効に使い、情報の見やすさに努めた。	B:令和4年度並みの成果であった	中高生世代に向けた情報発信手段について検討を進める。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
基本目標(2)学習機会の充実										
(2)-1	○ライフステージに応じた学習機会の充実	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもいを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を市内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康まちづくり戦略室	市内18の自主グループが活動中。グループ同士の情報交換、交流のためのイベントには、14グループ53人が参加した。	2年間で4グループが新規に活動を開始する等、高齢者を中心に生きがいの創出や健康増進に資する事業となっている。	イベント参加者に対し実施したアンケートからは非常に高い満足度であることがうかがえた。	運動習慣を持ち、他者とのつながりを大切にできるよう、各グループを支援することができた。	A:令和4年度より高い成果があった	参加者増を図るため、百歳体操の体験イベントを実施する。
(2)-2	○ライフステージに応じた学習機会の充実	国立市青少年国内交流事業	国立市在住の小学6年生を国内に派遣し、歴史・風土・文化に触れ、平和・人権などについての相互理解を深める機会を提供する。	児童青少年課	大型台風の影響により長崎現地訪問を中止。都内において東京大空襲・戦災資料センターを見学するなど、新たな研修を企画し学習を継続した。参加児童16名	戦争の悲惨さを学習することにより、平和・人権の大切さを児童が学ぶことができた。	保護者からは、代替事業を計画し、子どもの学びの機会を確保したことに対し感謝の言葉、参加の子どもからも平和と戦争についてすべて良かったといった感想をいただいた。	現地訪問は叶わなかったが、代替事業を実施し、子どもの学びの機会を確保できた。	B:令和4年度並みの成果であった	長崎の現地訪問が実現できるよう準備を進める。
(2)-3	○ライフステージに応じた学習機会の充実	グローバルカフェ事業	カフェのような気軽な雰囲気の中で国立市内在住の中高生(企画により小学校高学年児童を含む)と一橋大学の留学生とが交流する機会をつくり、多文化共生の視点を持ち、国際人の一人として行動できる青少年を育成する。	児童青少年課	年度当初より本来の参加定員15名で全6回実施した。毎回のテーマによる留学生の話や英語を使ったゲーム、フリートークタイムにより、楽しい時間を過ごした。延べ参加人数68名(留学生含む)	留学生を講師として招き、参加した子どもが海外や多文化に触れ多文化理解を得ると共に、普段学習している英語を実際のコミュニケーションの中で使うことで、語学を学ぶ価値や自身につなげることができた	海外の方と普段話すことがなかったので、話ができ良かった。色々な国の文化を知れて良かった。英語が通じてうれしかった。などといった意見を参加の中高生からいただいた。	コロナ禍は脱したもの、留学生自体の人数が減っていること、短期留学生が多いことにより、留学生の確保に苦心があった。	A:令和4年度より高い成果があった	本来の企画内容である日本の学生の留学体験談や、社会人の海外体験談などを実施していきたい。
(2)-4	○ライフステージに応じた学習機会の充実	CMスタッフ事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、中高生自身の意見の発信や中高生の目線を取り入れた市の情報発信を行う機会を提供することで、中高生の市に対する理解を高めるとともに、社会への参画の意欲を高める。	児童青少年課	円谷プロダクションが市に誘致されたことを受け、特撮という若年層が関心をもって取り組めそうなテーマ設定ができそうなこと、企業誘致の推進という市の広報需要にもマッチし得ることから、取材の調整を行っていたが、見込んでいた市と連携する形での企業側の事業展開が年度内に叶わなかったため、活動は見送り、実施していない。登録生徒数 4名	計画の基本目標に沿った事業展開が叶わなかった。	特になし	計画の基本目標に沿った事業展開が叶わなかった。	C:令和4年度より低い成果であった	子どもたちの意見を聞きつつ、市の事業に関心を持ってもらうこと、そして社会への参画の意欲を高めるための企画を検討する。
(2)-5	○ライフステージに応じた学習機会の充実	児童館小学生体験交流事業	小学生を対象に、遠足等の野外活動、工作・料理などの体験活動、焼き芋、凧作り等の季節行事、合唱・劇団などのクラブ活動等の機会を提供することで、小学生の社会性や自律性を育む。	児童青少年課	実施回数:年間176回 延べ参加人数:8,223人 新型コロナウイルス5類への移行に伴い、通常期に近い形で事業を実施。	小学生を対象にした事業を実施し、様々な学びの機会等を提供することで、社会性や自立性を育み、児童の健全育成に寄与することができた。	通常期に近い形で事業が実施されたことで、参加者が増え、各事業盛り上がりしていた。夏まつりなど大きいイベントは、子ども及び保護者から多くの反響があった。	感染症対策による規制がなくなり、通常期に近い形で事業が実施されるようになったことで、参加者たちに様々な体験の機会を提供することができた。	A:令和4年度より高い成果があった	令和5年度に引き続き、体験の機会等の提供に努め、より多くの小学生に対し社会性や自立性を育む事業を実施する。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-6	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	青少年キャンプ事業	国立市内在住の小学5年生～中学3年生を対象に、桧原村湯久保の古民家に宿泊し、豊かな自然の中での野外活動や学校の違う人と寝食をともにするキャンプを実施することで、自活力、コミュニケーション力を育む。	児童青少年課	宿泊事業として古民家宿泊と日帰りでのハイキングを行い2回実施した。 参加人数:キャンプ18名、ハイキング17名	今回は宿泊、日帰りと2回実施し事業展開を広げた。参加人数が増加した。	普段できない体験ができた と喜ばれた。	久しぶりの宿泊事業再開であり、周知方法を工夫した。結果的に参加者を増やすことができた。	A:令和4年度より高い成果があった	参加者の定着、増やすよう展開する。
(2)-7	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	プレーパーク事業	国立市内在住の18歳までの児童が、ツリークライミングやロープ綱渡り、野外料理、ハイキングなどを行うことができる環境を整備することで、世代間交流の居場所を提供すると共に、児童の本来の力を引き出す機会を提供する。	児童青少年課	実施回数:49回開催 延べ参加人数:3,481名	新型コロナウイルス5類への移行に伴い、野外活動体験事業では冒険遊び場キャンプ(一泊)を小規模に実施し、食べ物事業も行って、世代間交流の居場所を提供すること等ができた。	自由に楽しく過ごせることで、喜ばれた。	感染症対策による規制がなくなり、通常期に近い形で事業が実施されるようになったことで、参加者たちに世代間交流の居場所を提供すること等ができた。	A:令和4年度より高い成果があった	令和5年度に引き続き、世代間交流の居場所提供に努め、児童の様々な力を引き出す取り組みを実施する。
(2)-8	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	高次脳機能障害者支援促進事業	高次脳機能しょうがいを持つ方の集いの場として、主に市役所内でサロンを開設し、楽しみながら脳のリハビリにもなる様々なプログラム(体操、調理、絵手紙、俳句、音楽、書道等)を実施している。	しょうがいしゃ支援課	毎週水曜日(祝日を除く)の13時30分～15時30分、全47回(令和5年4月1日～令和6年3月31日)実施。主に市役所の会議室で実施。	高次脳機能しょうがいを持つ方に集いの場を提供し、当事者同士の交流を促すことができた。	安心して楽しく参加できる場として、当事者・家族や関係団体より評価いただき、今後の事業継続を期待されている。また、他自治体の視察やしょうがいサービス事業所の見学も多く受け入れている。	毎週サロンを実施することで当事者の体調の変化や生活の場の変化などに気づき、先の支援につなぐことができた。	B:令和4年度並みの成果であった	基本的には従来通りの会場参加形式でのサロンを実施する。
(2)-9	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	家庭教育講座	子育てを学ぶ機会の減少など家庭教育を支える環境の変化により、子どもの保護者への負担が大きくなっている中で、家庭が抱えるさまざまな課題解決の一助とすることを目的に家庭教育講座を実施する。	生涯学習課	令和6年3月19日に家庭教育支援講座「キャッシュレス時代における家庭での金銭教育」を開催し、30名が参加した。(会場とオンライン同時開催)	家庭での金銭教育について関心の高い方へアプローチする講座として、学習機会の充実に資することができた。	実施アンケートでは、「家庭でお金について話し合う機会となった」などの声があった。	テーマに関心の高い方が集まり、参加者にとって学びの機会につながった。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き、市民の関心の高いテーマについて講座を実施していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-10	○ライフステージに応じた学習機会の充実	高齢者向け各種運動事業	高齢者向け社会体育事業として、健康体操教室、街を山を歩くを実施している。	生涯学習課	令和2年度より新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から事業中止していたが、令和5年度より「街を・山を歩く」を再開し10月に1回を実施した。	6キロ程度のウォーキング事業を開催することで、計画の推進に貢献できた。	事業後にアンケートを実施し、半数以上から肯定的なご意見を頂いた。	令和5年度より事業を再開できたことは意義のあることと考える。	A:令和4年度より高い成果があった	令和6年度から実施を総合型地域スポーツクラブ「くにたちエール」に委託し年間4回の実施を予定している。
(2)-11	○ライフステージに応じた学習機会の充実	女性・男性・親子・子ども・高齢者向けの事業	世代別および個別の学習機会を提供するため、世代別や性別に応じた様々な事業を展開する。	公民館	女性のライフデザイン講座(通年)や男性の料理講座(年2回)、親子講座(年6回)、シルバー学習室(通年)を実施した。	同じような課題を持つ人達と一緒に学ぶことで、目的意識を共有しながら学習していく機会を提供することができた。	「毎週公民館へ通って学習するのが楽しい」「新しい仲間ができて嬉しい」等の声があり、グループ形成が深まる様子が見て取れた。	学習及び社会参加の機会としての継続講座は、参加者の相互作用によりグループが形成されて行くことから、担当者は側面からの支援にも努めた。	B:令和4年度並みの成果であった	新規公民館事業参加者・公民館図書室利用者増に向けて、周知を図りたい。
(2)-12	○ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃ青年教室、しょうがいしゃPC事業	しょうがいのある者となない者が共に活動し、お互い学び合うことを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	しょうがいしゃ青年教室(96回)、年間交流行事(4回)、青年講座(3回)等を実施。	しょうがいしゃも年間交流行事の実行委員を務めるなど活動のなかで積極的に役割を担い、しょうがいの有無を超えてともに学び合い楽しみあう機会を提供することができた。	しょうがい当事者からは活躍の場があること、保護者からは地域で仲間と関係性を育む機会になることなど、青年教室の成果について声をいただいた。また、ボランティアの若者の参加も年々増加しており、共生に向けた学びが活性化している。	令和4年度に比べ宿泊研修等、交流や学習の時間を多く持つことができた。喫茶実習の安定的な実施に向けて、更なる担い手の募集・育成を要する。	A:令和4年度より高い成果があった	学生スタッフが卒業等と共に入れ替わりが避けられないため、引き続き周知の拡大を行い、さらなる活性化を図りたい。
(2)-13	○ライフステージに応じた学習機会の充実	自立に課題を抱える若者支援事業	若者の自立や社会参画支援を目的として事業を展開する。今後も若者視線で関係機関と連携した共生の地域社会づくりを推進する。	公民館	中高生のための学習支援事業(36回)、自習スペースの設置(231日間)、NHK学園共催講座(1回)等を実施。	様々な背景を抱える中高生・若者に対して学習の個別支援や、彼らを支える人材を育む機会を提供することができた。	学習支援に参加する中高生からは、「学習習慣が身につくようになった」「大学生が親身になってくれて嬉しい」などの声があった。	市内での自習スペース設置の要望が高いことや、子ども・若者支援としての居場所づくりなどの目的から市民交流ロビーを活用して、中高生及び大学生等を対象とした自習スペースを安定的に提供した。	A:令和4年度より高い成果があった	参加人数の増加を目指すと共に、安定的・効果的な居場所の提供を目指す。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-14	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	生活のための日本語講座、日本語教育入門、にほんごサロン	国籍・文化・言語などの違いを超えて暮らしやすい生活を送ることを目的に事業を展開する。今後も共生の地域社会を育む学習機会を提供する。	公民館	生活のための日本語講座(233回)、日本語教育入門(8回)、にほんごサロン(11回)	地域に暮らす外国人への生活のための日本語学習の機会、地域で日本語支援をしたい人のための学習の機会を提供することができた。	日本語講座、にほんごサロンでは、日本語や日本文化について勉強でき、生活が楽しくなったという声、日本語教育入門では早く日本語ボランティアに参加したいという気持ちになった、との声があった。	受講者からの紹介を受けて新規受講につながるケースもあり、本講座等が受講者にとって内実のある学びとなっている様子が伺える。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き学習の機会を提供し、学習を通じて市民との交流もはかる。
(2)-15	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	児童サービス事業	子どもたちの学習や生活に役立つだけでなく、子どもの豊かな心の育成を目指し、推薦図書リストの作成、調べものの支援及び「えほんのじかん」「おはなしのじかん」「わらべうたであそぼう」などを実施している。また、中高生向けには、YAコーナーの展示や講演会の企画を実施している。対象は、子どもだけでなく、子育てにかかわる親や家族、先生、保育士、ボランティアも含む。	図書館	読み聞かせ入門リスト第3版、10代向けの推薦図書リストを発行した。また、「えほんのじかん」などの定期開催事業のほか、10代向け講演会などの講座を2回、工作や人形劇などのイベントを36回実施した。	推薦図書リスト等の発行を通じ、本に触れるきっかけを創出することで、幼児から中高生世代の読書推進につながった。	本の貸出時に、各種リストを手取る利用者が多かった。様々なイベントも概ね好評であった。	各種リストを電子図書館上でも読むことができるようにしたことで、より多くの市民に利用してもらえた。	B:令和4年度並みの成果であった	コロナ禍で中止していたイベントも順次再開しはじめた。しかし、その間参加できなかった現1～3歳児の参加率があり高くない印象を受けるため、イベントの有効な周知方法について検討したい。
(2)-16	〇ライフステージに応じた学習機会の充実	しょうがいしゃサービス事業	図書館の利用や情報入手にハンディのある利用者へ、資料・情報の提供をし、生涯にわたる学習を担保するための事業。視覚障害者向け資料の選定・作成依頼、大活字本等の購入、音訳・点訳資料の貸出、宅配サービス、相互貸借(他館との協力による貸出)等を行う。	図書館	しょうがいしゃサービス利用登録者一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数が159.4冊だった(しょうがいしゃサービス利用登録者数14名、音訳、点訳資料貸出冊数2232冊)。	音訳・点訳資料の貸出しを通じ、視覚的な情報入手が困難な利用者に貢献できた。また、来館が困難な利用者にも宅配サービスをすることで、読書の楽しみと、生涯学習の機会を提供できた。よって本重点施策の推進に貢献できた。	しょうがい等があっても、このサービスを通して読書を諦めることなく楽しめることができとても嬉しいというお声をいただく。今後も継続していくべきサービスだと考える。	令和4年度におけるしょうがいしゃサービス利用登録者数一人当たりの音訳資料、点訳資料平均貸出冊数の152.0冊(しょうがいしゃサービス利用登録者数14人、音訳・点訳資料貸出冊数2134冊)と比較すると、令和4年度は平均貸出冊数の成果が上がった。	A:令和4年度より高い成果があった	今まで通り実施していきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-17	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	租税教室	児童・生徒が、租税の意義や役割を正しく認識し、将来、健全な納税者となることを願い、適正な申告と納税の重要性について理解させることを目的とし、教育関係者、国税・地方税当局、税理士会、法人会等との連携・協調の下で、「租税教室」を実施する。	収納課	未実施	-	-	-	D令和5年度未実施であった	未定
(2)-18	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	各種健康相談、健康に関する講話・講演会、啓発など	主に生活習慣病予防を目的に、健康に関する意識啓発、生活習慣や検査データの改善を図るための各種事業を、各種団体とも連携しながら実施する。	健康まちづくり戦略室	保健師・栄養士が関係機関と連携し、各種事業を実施した。 ・SOSの出し方に関する教育 ・ゲートキーパー養成研修 ・薬物乱用防止推進活動 ・健康教育事業 ・ウェルエイジングからた測定会 ・健康サロン「血管長持ち大作戦」「血管元気大作戦」 ・女性の健康週間イベント（測定会、講演会）	市民の健康増進のために実施する各種啓発・相談事業を通して、市民の健康理解の機会を担保できている。 また、事業ごとに関係団体等の協力をいただきながら効果的な推進を図っている。	測定事業や講演会等の参加者からは、健康意識の向上につながったことがうかがえる反応をいただいている。	関係団体等の協力をいただくことで、効果的に事業を進めることができている。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き各種団体等と連携し健康事業を推進していく。 また、各事業を必要とする市民に届くよう効果的な情報周知を図る。
(2)-19	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	健康づくり推進員活動支援事業	健康寿命の延伸と健康なまちづくりを目標に、意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康まちづくり戦略室	新たに第7期の10名が登録。 計52名の市民に推進員として活動していただいた。 養成講座1回、定例会及び現任研修を4回開催。 毎週火曜日のオリジナル体操のつどいで中心的に活躍いただいているほか、市の健康イベント事業の運営に協力いただいた。	毎年度養成講座を実施し、推進員の方の学習の機会となっている。 推進員としてオリジナル体操等の普及に協力いただくことで、より多くの市民に健康増進および学習機会の提供が図られているといえる。	公園で実施するオリジナル体操は、推進員および参加市民にとって有意義な活動の場であるが、近年は夏季の熱中症対策等の課題が生じており、アラート発令時は中止する等の対応を図っている。	毎年度新規で登録いただく市民の方がおり、継続して活動いただく推進員も多くいらっしゃるため、担当課としては健康事業の推進にあたり非常に心強く感じている。 推進員の方々にとっても生きがいや学習につながるものとしていただけるよう支援に努める。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き推進員の方々と連携し健康事業を推進していく。
(2)-20	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	国立市青少年海外短期派遣事業	国立市内在住又は在学の中高生を海外へ派遣し、多文化・多様な人種の共生する社会を学習する機会を提供することで、他者理解の意識を醸成すると共に、将来のグローバル社会の担い手としての意識を育成し、世界を舞台に活躍する人材の輩出に寄与する。	児童青少年課	新型コロナウイルスの影響により事業自体を中止とした。	-	-	-	D令和5年度未実施であった	新型コロナウイルスの蔓延状況を注視しつつ、事業の再開時期を検討。
(2)-21	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ローカルセッション事業	国立市内在住又は在学の中高生を対象に、市内の地域資源等に触れながら、自分たちの活動の相互共有を図ることのできる機会を提供することで、中高生の他者理解や国立市政に対する考えを深め、また社会へ参画する意欲を高める。	児童青少年課	実行委員から「居場所づくりに取り組みたい」との声があったため、どんな居場所をイメージしているか、具体的に言語化してもらい話し合いの場を設けた。それを受けて、市内で実際に居場所づくりに取り組んでいて、実行委員のイメージとも近かった「国立本店」を訪問し、施設内を見学・スタッフへのインタビューを行った。	実現に向けた検討(居場所の言語化)や地域資源(国立本店)への取材など、社会参画への意欲の高まりが認められたが、具体的な展開まで結びつけることができなかった。	学校のクラスが賑やかすぎて自分にはなじめない、部活や塾で自分の時間が持てない、家が安心できないと感じる、など、居場所を必要とする実行委員たちの声があった。	公的で抽象度の高かった「居場所」のイメージを、それぞれの切実さから具体的に捉えることができたが、展開することはできなかった。	C:令和4年度より低い成果であった	実行委員会での子どもたちの意見を中心に、社会への参画の意欲を高めるための企画を検討する。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-22	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども観劇会事業	文化・芸術にふれる環境を整え、国立市内在住の小中学生の豊かな成長と地域文化への愛着を促すため、児童青少年課と市民グループを構成員とした「わくわく子どもフェスタ実行委員会」による事業の一環として子ども観劇会を実施する。	児童青少年課	「わくわく子どもフェスタ」は令和4年度より、新型コロナウイルス感染症対策による規制を緩めて実施。コーナー等は部屋の人数制限に合わせて開催し、今回は工作コーナーに限り時間枠と定員を設けて実施した。ホール公演(観劇)は、通常通り開催し多くの観客を入れることができた。 ・令和6年2月18日(日)10時から16時まで実施 ・来場者数:625人	市民団体と連携し、様々な体験の機会を提供することができた。	新型コロナウイルスが5類に移行されたことにより、制限されていた体験の機会が再開され、大変喜ばれていた。 11年間続いているイベントのため、初めて参加した人や毎回参加している人、出演者として関わっていた人など、様々な人が参加し、それぞれに楽しさなどを感じていたようである。	新型コロナウイルスにより制限されていた体験の機会を提供することができ、多くの人に楽しんでいただいた。	A:令和4年度より高い成果があった	令和5年度に引き続き、体験の機会の提供に努め、より多くの人を楽しんでもらえるようなイベントを実施する。
(2)-23	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	稲作体験学習会	市内小学校5年生児童を対象として実施。田植え・稲刈りの他、各校の希望に応じて、稲作体験学習会拡充プランとして社会科の授業へのゲストスピーカーの派遣、調理実習への委員訪問等を行う。	南部地域まちづくり課	市内公立小学校8校の5年生児童を対象に実施した。収穫した米(404キログラム)は各児童に配布した。 田植え:6月27日(火)実施 台風2号の影響により機械植えで実施 稲刈り:10月24日(火)実施 参加者:8校・550名 授業訪問(ゲストスピーカー):8校・550名 授業訪問(児童発表):1校・74名	教育委員会、農業委員会、JAとの連携・協働が順調に行われ小学生へ貴重な体験を提供できた。	地場産米や地域農業への関心が高まるとともに、地元農業者との交流をはじめ、新鮮な体験を提供できた。	滞りなく実施できたと考える。稲刈りでは、児童が滞留しない様な運用を徹底し、また各校の訪問授業では、スクリーンを使用した授業を行う等、可能な限りの対応を心がけた。	B:令和4年度並みの成果であった	各種団体と協議・連携しながら、より効果的に事業を実施できる様努める。
(2)-24	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	子ども向け各種運動事業	水泳・サッカーの教室を実施しているほか、東京女子体育大学・東京都多摩障害者スポーツセンターの協力により、様々なスポーツを体験できる「スポーツ子どもの日」を実施する。	生涯学習課	スポーツ子どもの日 ・実施日 R6.2.18 ・参加人数 51人 ・会場 東京女子体育大学 ・種目 体操競技、陸上競技、ブラインドサッカー	コロナ禍以降規模を縮小するなどしてきたが、今年度より開催形式を従来の3部制にするなど、計画の推進に貢献できた。	オリンピック・パラリンピック競技に子どもが触れる機会を提供したことについては好意的な意見あり。	子どもの運動への興味関心を高めるため、オリンピック・パラリンピック競技会を提供を今後も継続していく必要あり。	A:令和4年度より高い成果があった	令和6年度実施予定。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-25	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	ファミリーを対象とした各種運動事業	東京女子体育大学の協力により、ファミリーソフトボール教室を実施する。	生涯学習課	ファミリーソフトボール教室 ・実施日 R5.11.12 ・参加人数 44人 ・会場 東京女子体育大学	大学施設を使用し、例年並みに開催することができた。	オリンピック競技に親子で触れる機会を提供したことについては好意的な意見あり。	講師佐藤理恵氏には金メダルや聖火トーチを持参してもらい、オリパラ機運醸成とも関連した事業となり、今後も継続していく事業となる。	B:令和4年度並みの成果であった	令和6年度実施予定。安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国⽴市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-26	○ライフステージに応じた学習機会の充実 ○各種団体との連携・協働	しょうがいしゃを対象とした各種運動事業	身近な地域でのしょうがいのある方々のスポーツ活動の推進のため、東京都多摩障害者スポーツセンターと卓球連盟の協力により、卓球教室を実施する。	生涯学習課	卓球教室は開催に関して関係者と協議し、事業中止（開催なし）。一方、しょうがいの有無に関わらずだれでも参加できるポッチャ体験教室を開催したほか、ポッチャくにたちカップを開催した。 ・ポッチャくにたちカップ参加人数 72名 ・ポッチャ体験教室 166名	一部事業は中止となったものの、生涯学習課が主催するポッチャ関連事業を開催することができ、計画の推進に貢献できた。	しょうがいの有無にかかわらず、様々な方が同一の競技に関わる機会をが得られたことへの好意的な意見を頂いた。	東京パラリンピック開催により、パラスポーツへの理解や関心が高まっていると感じる。ポッチャをはじめ市民が気軽にパラスポーツに取り組むことができる機会の創出が求められる。	B:令和4年度並みの成果であった	卓球教室については東京都多摩障害者スポーツセンターと協議し開催を判断。ポッチャやモルックなど、しょうがいのある方々が安心してスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。
(2)-27	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権週間イベント	あらゆる差別や偏見の存在しない「人間を大切にする」まちづくりを推進するため、人権週間に合わせてイベント（講演会、映画上映会、パネル展等）を行う。	市長室	「くにたち人権月間2023」として、11/10～12/10の期間中に、講演会、展示、ワークショップなど約30個の企画を実施し、延べ約2,000人に対し啓発。	様々な人権課題をテーマとして扱うことや、講演会、映画上映、ワークショップなど多彩な企画を実施することで、より多くの市民等に参加を促すことができた。また、会場全体を終日貸し切りで企画を実施することで、複数の企画への参加につなげることができた。	実施に当たっては、当事者や市民との協働により多くの打ち合わせを実施し、様々な意見を踏まえて企画を実施した。	当事者や市民との協働により例年以上の企画数を実施し、多くの方に啓発を行うことができたが、企画数が増える一方で職員のマンパワーには限界があり、市として十分に企画内容に関わることができないものもあった。また、子どもたちや若い世代の参加が少なく、課題として残った。	B:令和4年度並みの成果であった	今後も継続して同様の啓発を行っていくためには企画数の厳選や一層の内容充実、より広い世代が参加するための工夫が必要であり、創意工夫を行いながら次年度以降も人権啓発に努める。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-28	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	平和事業	国立市平和都市宣言の趣旨に沿って、市民の平和意識の啓発を目的としたイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)をくにたち平和の日等に開催する。	市長室	くにたち平和の日企画として難民パネル展を実施(6/20～6/27)。「ふつうの日」になったのか 原爆の日」展として、一行のコトバを募集(1,039作品応募)し、「原爆の絵」と合わせて展示(8/4～8/15)。郷土文化館学芸員による戦時下の資料解説を伝承者講話と合わせて実施(3/10、55人)。	学校単位での取り組みについては、一定数の実施が毎年継続できている。一般参加者向けの企画では、関心の高い高齢層の参加が中心となる傾向があり、関心の薄い層に向けた取り組みも強化していきたい。	一部の学校では、伝承者講話を聞いてからコトバの記入に繋げるなどの取り組みが行われているようだが、大半の学校では「一行のコトバ」が授業の中でどのように組み込まれているか定かでない。効果的な学習支援のために、取組状況や学校側の要望等を把握していきたい。	従来は国内の戦禍をテーマにした啓発が中心だったが、くにたち平和の日(6/21)と世界難民デー(6/20)が近いことから、難民に関する啓発をおこなった。今後も様々なテーマで啓発をおこなっていきたい。	B:令和4年度並みの成果であった	くにたち平和の日企画で、子どもも楽しめるアニメーション映画上映会を通じて対話や平和について考えてもらうなど、若い世代にも広く参加してもらえるような企画をおこなっていく。
(2)-29	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化・芸術の視点を取り入れた人権・平和啓発事業	人権・平和施策をより広く発信していくため、平和コンサートや平和文学賞など、特に文化・芸術振興の視点を取り入れた人権・平和の意識啓発を図る。	市長室	「くにたち人権月間2023」において、アイヌをテーマにした歌・舞踊の披露を行い40人が参加したほか、刺繍体験には18人が参加。また、在日コリアンの演奏家によるチャンゴとカヤグムの演奏を行い、35人が参加。	アイヌや朝鮮に関する文化・芸術を発信することで、様々な人権を身近に感じてもらう啓発事業として実施することができた。	特にアイヌの刺繍体験は、子どもの参加も多く、実施後のアンケートでも好意的な意見が寄せられた。	人権という難しいテーマを、芸術・文化の観点から啓発につなげることができ、子どもたちも一定数参加するなど幅広い世代に啓発することができた。	B:令和4年度並みの成果であった	今後も継続して同様の啓発を行っていくためには企画数の厳選や一層の内容充実、より広い世代が参加するための工夫が必要であり、創意工夫を行いながら次年度以降も人権啓発に努める。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-30	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	女性と男性及び多様な性の平等事業	女性と男性及び多様な性の平等参画を推進することを目的として、男女共同参画推進週間等に合わせてイベント(講演会、映画上映会、パネル展等)を行う。	市長室	くにたち男女平等参画ステーション・パラソルにて、パネル展(8回)、映画上映会(1回、40人)、情報誌発行(2回)、小中学校への出前講座(11回)、交流会「ふらっと!しゃべり場」(14回、各回10人程度)等をおこなった。	くにたち男女平等参画ステーション・パラソルでは、小中学校と連携した児童・生徒、教員、保護者向けの講座を継続して実施しており、学習環境の支援に取り組んでいる。	令和4年9月から開始した座談交流会「ふらっと!しゃべり場」では、毎月定期開催することにより、リピーターも定着しており、ジェンダーや多様性についての考えやモヤモヤを共有することで、新しい気づきを得られるといった声がある。	4～5月に実施した「ジェンダー平等に関する市民意識調査」では、くにたち男女平等参画ステーション・パラソルの認知度が約10%と低く、企画の利用率も低い状況であり、広がりが課題である。	B:令和4年度並みの成果であった	8月に矢川プラスにて、小中学生向けの「夏休みジェンダー教室」を開催するなど、講座の利用者層を広げるように取り組んでいく。
(2)-31	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	防災出前講座	受講希望者が聞きたい内容に合わせて防災出前講座を実施。防災意識等の高まりから市民や団体等からの開催要望が多く、引き続き様々な機会を捉えて、周知をしていく。	防災安全課	27回の講座を開催(講師派遣を含む。)した。	昨年度に比較して講座の開催回数が増え、市民への学習機会が増えた。	実災害の状況や対応についての情報提供を行うことで、より防災意識の醸成を図ることができた。	学校からの依頼により、若年層への防災意識の啓発が行えた。	A:令和4年度より高い成果があった	能登半島地震を受けての情報提供を行い、市民の意識啓発を行っていく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-32	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	各種防災訓練等	各防災機関や市民等が、とるべき防災活動を実践及び防災対策について習熟し、防災機関が相互の連携体制を確立するため、各種訓練を実施していく。	防災安全課	総合防災訓練(防災フェスタくにたち)のほか各種訓練を実施した。	コロナ禍でストップしていた地域との合同訓練を再開することができた。	能登半島地震後に実施した訓練では、熱心に話を聞いたり、作業をしたりする市民が多かった。	地域については、基本的な訓練から再開した。地域の防災対応力を向上させるため、引き続き訓練を継続させていく必要がある。	A:令和4年度より高い成果があった	5年度に実施ができなかった地域での訓練を再開させ、市民の防災対応力を向上させる。
(2)-33	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	健康ウォーキングマップ普及事業	ウォーキングによる健康づくりを推進するため、市民のワーキンググループである「ウォーキングマップづくりの会」と市が協働で、市内の見所や健康情報を掲載した全9コースからなる健康ウォーキングマップを作成。このマップを活用し、市民の方々にウォーキングを楽しんでもらう。	健康まちづくり戦略室	健康まちづくり推進の一環として、これまで配布してきた9コースのマップを1つにまとめた「いい日くにたちおでかけマップ」を製作。有償刊行物として公共施設等で販売を開始した。健康ポイント事業と連動したイベントも開催した。	ウォーキングに資する情報に加え、観光・防災情報等も盛り込み、様々なテーマの学習に資するものとなった。	多くの市民や来街者、事業者等の購入があり、好評の声もいただいている。	健康づくりおよび生涯学習に寄与するため、引き続き広報周知を行っていく必要がある。	A:令和4年度より高い成果があった	「いい日くにたちおでかけマップ」を増刷予定。令和6年度より本格実施となる健康ポイント事業との連携についても検討していく。
(2)-34	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	住宅地等安全緑化推進事業(ガーデン講習会)	緑の基本計画に基づく、市街地の緑化推進事業の一環として、緑化や園芸について学ぶ場を提供するとともに、防災や交通安全の視点も含んだ安全緑地の考え方を広く市民に浸透させ、民有地緑化を推進することを目的とする。	環境政策課	これまでに「くにたち緑のサポーター」ベーシックコースを受講した方を中心に、樹木の外観診断・桜の樹勢等の診断を学ぶアドバンスコースを開催し、4名が受講した。また、オンラインによるベーシックコースを開講し、12名が受講した。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	オンライン講座による基礎的な学びに加え、実地による講習を実施したことで、参加者からは非常に好評であった。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続きアドバンスコースの開講を予定している。
(2)-35	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	廃棄物処理施設見学会	市民から出される廃棄物処理の流れを理解してもらい、ごみの減量・資源化を推進するため、廃棄物処理施設の見学を行う。	ごみ減量課	施設見学会は公私立小学校及び大学関係者、高齢者の会等計10団体を実施した。	事業を継続したことにより、様々なテーマや課題に対応した学習の支援につながった。	小学校関係者は毎年実施しており大変好評であった。	団体での申し込みが減少傾向にある。	B:令和4年度並みの成果であった	継続にて実施しつつ広報活動を強化していく。
(2)-36	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	家庭用生ごみ処理容器「ミニ・キエーロ」モニター講習会	家庭から出る生ごみを減量するため、「ミニ・キエーロ」の使い方等を説明するためのモニター講習会を行う。	ごみ減量課	講習会8回行い、49名が参加した。	家庭から出る生ごみの減量、消える実感やごみの分別意識の向上につながった。	生ごみを減り、ごみを出す回数が減った、分別する意識が変わったとの声があった。	関心がある市民には一定程度の普及効果があった。	B:令和4年度並みの成果であった	継続して、市民に関心を持ってもらえるよう普及活動続ける
(2)-37	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	種まきから収穫までの農業体験事業	農業のノウハウを学びながら、種まき、草取、収穫を通して体験する。	南部地域まちづくり課	計24回の体験を実施(全て土曜日)。参加延べ人数は568名であった	収穫のみ行う1DAYイベントとは異なり、種まき、草取、収穫等、長期的な視座で農業に触れていただく機会を創出できた点は、参加者から大変好評を得たと考える。時間が経過する中で、講師(農業者)とだけではなく、参加者同士の交流も活性化され、市内農業や地場産野菜を支援する輪が広がる点にも期待できる。	各参加者は、自身が種まきや苗植えから携わり育てた野菜を収穫できる点について、非常にやりがいを感じていた。また、各参加者の学習意識は非常に高く、作業の合間に農業者から教授されるノウハウ等には、常に熱心に聞き入っていた。回を重ねる中で、参加者同士が顔見知りとなり、野菜作りをテーマにしたコミュニティが形成されていく点も、大きな楽しみとなっていた様に感じられる。	通年を通して、非常に満足度の高い事業を展開できたと考える。体験日以外の作業や準備には相当の時間・労力が割かれるため、職員の役割分担をはじめ、業務効率化に向けた仕組みを検討していきたい。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度同様に事業実施する。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-38	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	収穫と調理体験事業	講師を招き、市内農園で自ら収穫した野菜と一緒に調理する。	南部地域まちづくり課	3回実施。参加人数は14名であった。	小規模ながら参加者にとっては、貴重な学習機会となった様に感じられる。	収穫と調理を一度に行える体験は、好評であった。	小規模ながら料理系イベントを実施できて好評であった。	A:令和4年度より高い成果があった	収穫と調理体験イベントの実施の拡大を検討していきたい。
(2)-39	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	お米農家の見学と田園散策	案内人の解説を受けながら、お米農家や用水など、南部地域の田園地帯を散策する。	南部地域まちづくり課	1回実施。参加人数は13名であった。	その他の収穫系イベントとは異なり、他要素(環境政策的)と連携して実施できた点は、参加者にとっても新鮮な学習機会となった様に感じられる。	実際に水生生物を発見できた際は、参加者から驚きや喜びのリアクションがあった。さらに水環境との関係性(例:この生物が居るということは、水質が良い指標である)をレクチャーしていただく事で、環境学習にも発展した。	「農業(稲作)」と「水環境(水生生物)」という2つのテーマを扱うため、進行には工夫を凝らした。経路についても、より効果的なイベントとできるよう見直しを行い、一定の効果を得られた様に感じる。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度同様に事業実施する。
(2)-40	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域に開かれた学校教育	現在の学校を知り、学んでもらうため、学校公開、道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施する。	教育指導支援課	全市立小・中学校において、学校公開や道徳授業地区公開講座、セーフティ教室を実施した。	コロナ禍における経験も踏まえつつ、各学校が工夫をしながら通常の学校活動を実施できた。	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、すべて参集型で開催できたことで、実際に学校に訪問できて良かったという声をいただいた。	通常の学校活動を実施できたことで、保護者に直接来校する機会を増え、保護者や地域等からの学校への理解・協力につながった。	A:令和4年度より高い成果があった	引き続き、通常の教育活動を実施していく。また、今後コミュニティ・スクール導入に伴い、保護者が学校の教育活動に参画する機会を増やしていく。
(2)-41	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	人権、平和、憲法、環境、多文化共生などの事業	現代社会の課題を考えることを目的に、普遍的な課題や時事的な社会問題などの様々な学習機会を提供する。	公民館	平和(7回)、人権(1回)、憲法(1回)、ジェンダー・セクシュアリティ(1回)、環境(1回)、多文化共生(2回)等現代社会の課題を考える講座を実施。	様々な切り口から、平和、人権、近現代史などを身近な課題として捉え考えるきっかけとなる学習機会を提供することができた。	フィールドワークも実施し、市民・利用者の学びの機会・範囲を広げることができた。	一つのテーマを多角的に学ぶことができるよう、フィールドワーク等も含めた発展的な講座の構築を試行した。	A:令和4年度より高い成果があった	引き続き、多角的な学びの提供を目指し、多様かつ関連性を持たせた講座を展開したい。
(2)-42	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	地域課題・教育機関連携事業	まちを知る、地域から学ぶこと、地域の高等教育機関との連携などを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	一橋大学連携講座(2回)、地域史講座(2回)、地域防災講座(1回)等、地域教育学習会(1回)、文学と地域(2回)、地域のサークルや大学等と連携して講座を開催した。	地域のサークルや大学と連携しながら、公民館だけではできないような学習機会を提供できた。	一橋大学連携講座では、一橋大学と連携し、深く学ぶことができる講座の内容が好評であった。	多様なテーマや課題に対しフィールドワークの機会を提供する等、講座の展開に工夫を図った。	B:令和4年度並みの成果であった	地域課題を体感できる講座の組立てを継続する。
(2)-43	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	社会・人文学習事業	社会を見つめ、文化をつくることを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	図書室のつどい(12回)、ブッククラブ(8回)、映画会(8回)、古典講座(5回)、哲学講座(5回)、文化芸術講座(2回)等を実施。	様々なジャンルの作品を取り扱うことで、現代社会の問題や文化について考える機会を提供できた。	図書室のつどいや映画会などは、どの回も申込開始後すぐに定員に達するほどの人気ぶりで、参加者からは内容に感情移入しながら楽しく学べたという声が多く聞かれた。	図書室のつどいや映画会など以前は申込不要にしていた講座も昨年度に引き続き人数制限を設け事前申込制とした。映画会も途中休憩を入れて喚起を行うなどの感染対策を徹底した。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き、多角的な学びの提供を目指し、多様かつ関連性を持たせた講座を展開したい。
(2)-44	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	表現学習事業	表現と創作を楽しむことを目的に事業を展開する。今後も社会教育施設として、目的に沿った多様な学習機会を提供する。	公民館	身体表現ワークショップ(8回)、銅版画(5回)、子育て短歌(7回)、文章表現(4回)等を実施。	身体を動かす、絵を描く、文章を書く等様々な切り口から表現と創作を楽しむ機会を提供することができた。	「仲間ができたり今まで知らなかった自分を発見することができた」など表現を通じて様々な出会いや、自分自身を内観する機会を得ている声が多数聞かれた。	身体表現ではクリスマス会(発表会)、銅版画では展示会、歌集の発刊等、発表の機会を持つことができた。	A:令和4年度より高い成果があった	引き続き、個人・グループの伸びやかな自己表現の場となるよう、多彩な表現活動の提供を図る。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-45	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	公民館図書室・地域資料収集事業	読書活動振興および講座関連図書を周知するため開室している。今後も図書室業務の機能充実および推進を図る。	公民館	公民館主催講座に関連する書籍の受入、地域資料の継続的な収集・整理・保管を実施。	公民館で実施する市民が参加できる講座や催し物のテーマ・内容に関連した本を優先して収集・紹介し、市民の学びを深めることにつながっている。	講座に関する知識をより深めることができる、地域の活動の一端を知ることができ、などの声があった。	公民館主催事業と関連し特設コーナーを設け書籍の展示を行ったり、拡がりのある学習機会の提供に努めた。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き公民館活動への“入り口”として、グループ活動・主催事業への関心の喚起や、市民が資料を通じて学びを深め、豊かな人間関係を育む援助となることを目指す。
(2)-46	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	図書館企画事業	講演会や講座、行事等を企画し、市民、利用者が自ら学び、活動できる機会を提供する。	図書館	講演会等を55回開催した。	講演会等を行い、市民に対して学習の機会を提供することができた。講座のテーマ設定では、市民にとって身近に感じられるものにする事で、その後の自主的な学びにもつながったのではないかと考える。	講座で取り上げられたトピックに関する書籍にも興味をもてたという声があり、受講が読書を通した学びにもつながっているようだった。シリーズ化を希望される講座もあり、概ね好評だった。	令和4年度と比較すると回数は減少してしまったが(令和4年度は64回)、感染症対策を徐々に緩和し、従来の実施形態に近づけることができた。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き、市民の学びにつながる講演会、講座等の企画・開催に努める。
(2)-47	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	わくわく塾くにたち	市の職員が市政の現状や課題、政策内容などの情報や職務で得たノウハウ等を地域グループ、サークル等主催の学習会に出向き、講座を行う。	生涯学習課	令和5年度は14件の利用があり、延べ134人が参加した。 講座の新設:4件	さまざまな講座メニューを用意することで、市民が行政課題を身近に考えていただくきっかけとなっている。	「日々感じていた小さな疑問を聞くことができてよかった」などの声をいただいた。	令和3年度より、利用件数、利用者数は伸びているが、実施講座に偏りがある。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き、市民を引き付けられるような講座メニューの新設等を検討する。
(2)-48	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援	文化芸術推進事業	現在策定中の(仮称)文化芸術推進基本計画に沿って文化芸術施策を展開する。	生涯学習課	文化芸術サロンの開催、くにたちアートプロジェクト(Kunitachi Art Center、ラジオ下神白上映会など)を行った。	年間を通じて、市民が参加できるイベントが実施できた。	運営に協力してくれる市民の方が増えてきた。	年度全体で各種事業を展開でき、新たな交流も生まれてきた。	A:令和4年度より高い成果があった	引き続き、アートプロジェクトの開催を行っていく。特に拠点を活用した事業を増やしていく。
(2)-49	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	定期講話を12回(1日に2回ずつ)、派遣講話を51回、学校講話を市立小学校8校・市立中学校2校で実施。伝承者を対象にしたフォローアップ会議(研修等)を3回実施。	学校講話は昨年度から実施校が1校増え、各学校での継続的な平和学習に活用されている。	講話を聞いた子どもたちからは、自分も伝承者になってみたいという声が聴かれることもあり、子どもたちの意欲をいかに取り組みを進めていきたい。	令和5年度から、広島原爆・長崎原爆の市外派遣を広島・長崎の両祈念館経由で行うこととなり(国の予算により依頼者の費用負担なしで派遣可能)、派遣講話の件数は令和4年度の42回から増加した。	B:令和4年度並みの成果であった	令和6年度から、伝承者が相互に講話を披露して気づきを得る講話研修を実施していき、講話内容のさらなる向上を目指す。
(2)-50	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	「エコール辻東京」料理講習会	地産地消を目的とし、また、消費者啓発を図るため、身近な食材を用いた新しいレパートリーを学ぶ講習会を行う。	まちの振興課	令和5年1月に「身近な野菜を使用した、自宅で簡単に作れる本格的なパン」をテーマにした製パン講習会を実施し、30名の市民に参加頂いた。	身近な食材を使用したレシピを学ぶことで、今後の豊かな消費生活に寄与することができたと感じる。	プロの技を紹介頂くことで、自宅でも本格的なパンが作れる方法を学ぶことができ、参加者からの評価は非常に高かった。	土曜日開催としたことで平日に参加が難しい層にも参加頂くことができ、高い満足度が得られた。	B:令和4年度並みの成果であった	令和6年度からはエコール辻東京が市外へ移転したため一旦実施は見送るが、今後代替事業を検討していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(2)-51	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	文化芸術講演会	市民の方々が文化芸術に対する関心を高めてもらうことを目的に、NHK事業部との共催で、美術館・博物館等で行われる企画展と関連する内容の講演会を行う。	生涯学習課	文化芸術講演会を1回開催し、参加者数は95名だった。	コロナ禍で中止していたが、令和5年度から再開し、本重点施策の推進に貢献できた。	参加者に企画展の入場券を配布するため、市民の方に喜んでいただけている。	関心の高い市民に満足いただけたと感じる。今後もより関心の高いテーマのものを実施していきたい。	A:令和4年度より高い成果があった	引き続き、NHK事業部と連携し、実施していく。
(2)-52	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	消費者講演会	消費者団体と共催で、消費者啓発を行うための講演会を実施する。毎年トレンドに合わせてテーマを変えながら、消費者の啓発および自立を図るべく継続実施していく。	まちの振興課	令和6年3月に「ごみの分別について」をテーマに学習会を実施し、17名の市民に参加頂いた。	消費生活において必ず排出するごみに関するテーマであったため、理解を深めて頂く良いきっかけになったと感じる。	参加者から活発な質問が出ており、非常に関心が高いテーマであると感じた。	「学習会」としたため会場開催のみとしたが、オンライン配信等も検討しても良いかと感じた。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度と同様にテーマを選定のうえ実施予定。
(2)-53	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	大使館訪問スタディバ スツアー	国際理解を深めるため、市内小・中・高校生を対象に、地域国際交流団体の支援を受け、大使館等の国際機関への訪問を実施する。	まちの振興課	令和6年3月に駐日ルーマニア大使館への訪問バスツアーを開催し、市内中高生20名の参加があった。	大使館の協力により、市内中高生の国際理解を深めることができた。	国際理解や、ルーマニアへの理解を深めることができたという参加者がほとんどであった。	今後は、小学生、中学生、高校生の各々の成長段階にあったプログラム内容を検討する必要があると考える。訪問先についても、過去の訪問先、大使館訪問以外にも検討していく。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度と同様、児童青少年課と共催でバスツアーを実施する予定である。訪問先は未定。また、プログラムの内容や大使館以外の訪問先等、次年度以降の事業の在り方を検討する。
(2)-54	○様々なテーマや課題に対応した学習の支援 ○各種団体との連携・協働	LINKくにたち	スポーツに対して親しみを持ってもらい、また、連帯感や達成感を共有し、市民同士の繋がりを強めることを趣旨として、大学通りでリレーマラソン等を実施する。	まちの振興課	マラソン参加者は約1000人、一般参加者は約5,000人であった。出店も昨年より多い22店舗であった。	市民や団体同士のつながり形成の場を提供できた。事業を無事完了できたことで、連帯感や達成感の共有を強く達成できたと思う。	昨年度に引き続き、開催を喜ぶ声が参加者・来場者双方から多く寄せられた。	担当者の業務負担が大きいため、業務の継続性を考えて業務改善の検討は必要だが、当日は大きなトラブルなく実施できた。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度と同様、コロナの制限なく開催できた。また、一部業務委託を行う等新たな試みを実施した。
(2)-55	○各種団体との連携・協働	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	大学通り緑地帯及び市内公園への花植えを、市民ボランティア、公園協力会、市内学校等の協力を得ながら、年二回実施した(延べ約650名参加)。例年実施していたイベント(桜の接ぎ木体験2回、どんぐりイベント等。延べ約120人が参加。)についても実施した。	大学通り緑地帯での定期的な維持管理作業や、年二回の花植え作業のほか、学校と協働した接ぎ木体験、花植えなどを実施した。	大学通り緑地帯や市内公園への花植えについては、道行く市民の方々より、好意的なご意見を多々いただいた。また、各種イベント参加者からも非常に好評を得ている。	新たに市民ボランティアとして活動したいという申し出をいくつも受け、ボランティア増員ともなった。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き市内の各団体等と連携、協力しながら、市内緑化に係る活動を展開していく。
(2)-56	○各種団体との連携・協働	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	これまでに「くにたち緑のサポーター」ベーシックコースを受講した方を中心に、樹木の外観診断・桜の樹勢等の診断を学ぶアドバンスコースを開催し、4名が受講した。また、オンラインによるベーシックコースを開講し、12名が受講した。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできなかったが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	オンライン講座による基礎的な学びに加え、実地による講習を実施したことで、参加者からは非常に好評であった。	緑化等についてのより専門性の高い学びの場を設けることはできたが、参加者増に向けた広報については検討の余地がある。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続きアドバンスコースの開講を予定している。
(2)-57	○各種団体との連携・協働	他団体と図書館の連携事業	NHK学園の協力のもと、月2回程度、国立市民向けにNHK学園の図書館が開放され、図書や、雑誌、新聞、インターネットの閲覧等ができる。一橋大学サークルの協力により、中高生向け図書の展示や図書リサイクルを実施する。国立本店との協働により、推薦図書の展示や講座・講演会等を開催する。	図書館	・NHK学園との協力事業について随時行った。 ・一橋大学サークルの協力による事業として、中高生向け図書の展示企画を2回行った。	企画等を他団体と行うことで、市役所以外の価値観、視点を取り入れることができるため、市民の学習機会の充実を実現することができた。	一橋大学サークルによる図書の展示はPOPにも工夫が施され、中高生と年齢が近い大学生の選書ということもあり、貸出冊数が増加した。中高生世代の読書推進につながっていると感じる。	NHK学園図書館の利用率はあまり高くない。市民への周知に課題が残る(現在の周知方法は、図書館ホームページと館内掲示)。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き、市内の各団体等と連携、協力しながら、図書館事業のさらなる充実を図っていく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
基本目標(3)学習の成果を活かせるサポートの充実										
(3)-1	○発表の場の充実	くにたち市民文化祭	市民の自主的な文化・芸術活動を支援するため、毎年1回文化祭を実施する。今後も文化・芸術活動の場の促進を図る。	公民館	参加団体24団体。オープニング式典・交流会の実施。	令和4年度に比べて参加団体、参加者・来場者数は大きく増加し、市民の文化活動の機会を確保できた。	コロナ禍を経て交流会が再開し、公民館利用団体間の直接的な交流の場を提供することができた。	参加グループの活動紹介を、館内の人目につく場所に長期に掲示したことにより、各グループの一層の周知を図ることができた。体裁等を一審したパンフレットは参加者にも好評であった。	A:令和4年度より高い成果があった	文化祭実行委員会と協働を図り、継続的・安定的な運営を図る。
(3)-2	○発表の場の充実	市民まつり・さくらフェスティバル・LINKくにたち	大学通りや谷保第三公園で行われるまつり・イベント。会場内では、様々な催し物が開催され、来場者が楽しむことができる。舞台等では踊り・歌等が披露されており、各団体にとって日頃の成果の発表の場となっている。	まちの振興課	令和5年4月にさくらフェスティバルを開催し、令和5年5月にLINKくにたちを開催し、令和5年11月に市民まつりを開催したが、大盛況であった。	いずれのイベントもトラブルなく、多くの来場者が訪れ、良い発表の場を提供することができたと考えている。	いずれも開催について喜ぶ声が参加者・来場者双方から多く寄せられた。	予算も非常に厳しい中での開催となったが、結果的にトラブルなく素晴らしいイベントとなった。	A:令和4年度より高い成果があった	R6年度も同様に開催する予定だが、イベント役員である市民の高齢化に対応するため、一部の作業については民間委託することも検討する。
(3)-3	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち原爆・戦争体験伝承者による講話活動	被爆体験や戦争体験を次世代へ伝えるため、市内の被爆者・戦争体験者の体験と平和への願いを語り継ぐ「くにたち原爆・戦争体験伝承者」による講話を市内公共施設や小中学校等で開催する。	市長室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-4	○学習の成果を活かせる場の形成	いきいき百歳体操の普及推進	高齢者の介護予防として筋力向上とコミュニティづくりを推進するため、おもりを使った筋力運動である「いきいき百歳体操」の普及と効果測定を市内保健師連携により図るとともに、自主的に行うグループを増やしていく。	健康まちづくり戦略室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-5	○学習の成果を活かせる場の形成	健康づくり推進員活動支援事業	意欲ある市民を健康づくり推進員として登録し、保健師等とともに市民の健康づくりを推進する。推進員には必要な病態、運動、栄養等の知識の習得と健康づくりの実践に努めていただき、地域住民等の自発的な健康づくり活動の展開につなげていく。また、オリジナル体操の普及を推進するため、健康づくり推進員が毎週定期的に公園で開催するほか、地域の団体への出張講習や高齢者事業等で普及を図る。	健康まちづくり戦略室	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
(3)-6	○学習の成果を活かせる場の形成	シニアカレッジ研修	高齢化が進む社会の中で、地域で高齢者サロンの開催や生活支援活動を担ってもらえる方、市内の訪問介護・通所介護事業所に従事していただける方を養成する講座を開催する。	高齢者支援課	22回の講座を行い、10名が受講、8名が修了した。	地域での生活支援活動等の担い手を養成する講座を開催することで、学習の成果を活かせる場の形成につながっている。	様々なテーマについてそれぞれの専門家の講義を受けられたため、研修に満足したという声が多かった。	受講者の満足度が高い講座を開催することができた。より受講者の地域での活動への参加につながるよう努めたい。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度と同様に実施する。
(3)-7	○学習の成果を活かせる場の形成	花と緑のまちづくり事業	総体となる「花と緑のまちづくり協議会」及び主要テーマ毎の検討部会/プロジェクトを立ち上げ、市民委員が主体となり、各々が定期的なMTGや実活動(美化活動やイベント)を実施する。多様なメンバーが結びつきながら、花と緑を切り口に地域内で活躍する機会を提供することができる。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-8	○学習の成果を活かせる場の形成	くにたち緑のサポーター養成塾	一般公募による市民と市職員を対象に、緑を適切に保護・育成するための必要知識を学び共有する機会を提供する。講座は全6回で、テーマ毎に大学教授、研究職員、造園家、樹木医、庭園家、市職員が講演を実施。修了試験に合格した市民は「緑サポーター」として登録し、市内の緑の見守り隊や、花と緑のまちづくり事業等で活躍できるよう、フォローをする。	環境政策課	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲	再掲
(3)-9	○学習の成果を活かせる場の形成	多世代交流・市民サークル交流事業	子どもと大人の世代間交流、異種サークル交流、地域人材活用のため事業を実施する。今後も多様な交流や地域人材の活用を図る。	公民館	会場調整会を公民館利用者連絡会の協力を得て、規模を縮小しながらも月1回実施した。	公民館利用者連絡会の活動の場と、会場調整会に参加した団体同士の交流の場となった。	団体同士が実際に会って、調整をおこなうことで、30分程度の単位の調整もでき、団体同士の対話も生まれていい制度であるとの声が聞かれる。	コロナ禍以前は会場調整会に毎月申込団体すべて(100人程度)がホールに集まっていたが、コロナ対策として密を避けるため、会場予約に重なりのある団体のみ1週間前に掲示(館内3か所及びホームページ)して、会場調整会に参加する方法に変更して実施した。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き感染症対策を徹底し、公民館利用者連絡会の協力を得ながら実施していく。
(3)-10	○学習の成果を活かせる場の形成	図書館ボランティア育成事業	図書館サービスを向上させ、市民参画を促すために、研修等によりボランティア(音訳・点訳ボランティア、くにたちお話の会、えほん読み聞かせボランティア等)の育成を図る。	図書館	ボランティア活動回数は691回であった。また、ボランティアの研修会として、初級音訳者養成講座を10回実施し、39名の参加があった。	ボランティア活動を通して、市民が音訳、点訳、読み聞かせ等の各々の学習の成果を継続して発揮することができた。	児童サービス・しょうがいしゃサービスいずれにおいても、利用者が毎回の活動を楽しみにされている様子であり、それがボランティアのやりがいにもつながるといふ好循環が生まれているように感じる。	新型コロナウイルスの影響により、活動休止中のボランティア団体もあるが、全体での実施回数は数年前の水準に戻りつつある。	A:令和4年度より高い成果があった	研修会等の機会も積極的に設け、参加を促していきたい。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
基本目標(4)施設や場の拡充、職員の専門性の確保										
(4)-1	○施設や場の拡充・市民ニーズに合った施設運営	公民館会場・備品等の貸出事業	市民の自主的な社会教育活動を支援するため実施する。今後も社会教育施設として市民の自主的な学習活動の支援を図る。	公民館	サークル利用が年間で4,575回。備品は、印刷機471回、液晶モニター134回、プロジェクター165回、マイクセット234回等貸出しを行った。	市民のグループ・サークル活動に役立っている。	コロナ禍を経てサークル活動が本格的に再開してきた。一方でコロナ禍に活動を休止し、そのまま活動が立ち消えた団体も存在しており、安定的な活動に向けて支援を要する。	利用者に協力いただきながら、円滑に運用できた。	B:令和4年度並みの成果であった	引き続き公民館利用者連絡会の協力を得ながら、学習活動の支援を行っていく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	職員課	生涯学習課より呼びかけのあった国立市の歴史(国立市内の小学校)研修に2名、文化芸術推進基本計画推進に係る職員向け研修に19名参加した。	—	—	目的を満たすことのできる内部研修を実施し、職員の参加につなげることができた。一方で、目的・内容を満たす研修を、外部講師を招いて実施しようとする場合、費用対効果や講師の選定といった面で難しく、あまり効果的ではないと考える。来年度以降についても、引き続き内部研修を実施すると共に、地域の生涯学習に役立つ外部研修が実施される場合には、職員の派遣を検討したい。	A:令和4年度より高い成果があった	市民の生涯学習につなげることができるような内部研修を他部署と連携し、職員研修として検討したい。また、地域の生涯学習に役立つ外部研修が実施される場合には、職員の派遣を検討したい。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	生涯学習課	生涯学習課・公民館・図書館・郷土文化館の職員を対象に、「横断・連携を通じた生涯学習振興について」というテーマで1課3館合同研修を実施した。	1課3館の連携が図られたとともに、職員の専門性の向上につながった。	特になし。	20名の職員が参加し、1課3館の連携が図られた。	A:令和4年度より高い成果があった	引き続き、計画に貢献できる研修を実施していく。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	公民館	前年度に引き続き東京都公民館連絡協議会に加盟し、年28回、45名が部会(5部制)及び研究大会へ参加した。。また、社会教育主事講習を1名が延べ16日間受講した。	他市との貴重な情報交換の場となったと共に、職員の専門性向上につながった。	地域住民の学習活動を支援するうえで必要な知識を得る機会が得られたという声をいただいた。	令和4年度は公民館職場内研修も2回、延べ参加者36名で実施してた。	B:令和4年度並みの成果であった	令和6年度は、研究大会開催市となる。加盟市と協働にて実施する。
(4)-2	○職員の専門性の確保	職員研修の実施	地域住民の主体的学習の促進、計画・事業等の企画立案、地域の様々な情報の収集・分析・提供、組織化援助、関係者(機関)との連絡調整、地域における指導者等の人材育成の能力を育成するような研修を実施する。	図書館	子供の読書に関する講座(児童図書館専門研修)、レファレンス研修に2名が参加した。	経験値の高い講師による講義や他自治体職員との情報交換により、図書館司書としての能力向上につながった。	レファレンス研修などの実践的スキルを習得できる研修は、日頃の市民サービスに直結するため、特に有用性が高いと感じる。	外部研修では、他の自治体職員との情報交換を行えることもメリットの一つである。内部だけでなく、外部の研修への積極的な参加も目指していきたい。	B:令和4年度並みの成果であった	令和5年度は、図書館科の研修が実施される予定である。それ以外にも、市民の生涯学習を支える図書館員として必要なスキルを育成するため、研修の積極的な実施を目指していく。

オ)の担当課評価については、以下のA～Dから選択
A:令和4年度より高い成果があった B:令和4年度並みの成果であった
C:令和4年度より低い成果であった D:令和5年度未実施であった

国立市生涯学習振興・推進計画の進捗状況について(令和5年度)

番号	重点施策	事業名	目的・内容	担当課	ア)令和5年度の事業実績	イ)計画の基本目標や重点施策に即した担当課評価	ウ)市民・利用者からの声、市民との対話内容、その他業務を行う中で気づいたこと	エ)担当課による振り返り	オ)令和5年度の担当課評価	カ)令和6年度の実施方針
基本目標(5)適切な事業評価方法の検討										
(5)-1	○生涯学習や社会教育の役割や効果を表すことのできる評価方法の検討	事業評価方法の検討	生涯学習振興・推進計画の中間評価、終了時の評価をするにあたり、定量評価と定性評価の両面からの評価をするため、評価方法の開発について検討します。	生涯学習課	中間評価を実施した。	中間評価では、定性・定量両面からの評価が行えるよう検討した。	社会教育委員の会より、定量評価がなされていないという意見をいただいた。	社会教育委員の会からの意見を踏まえて、終了時の評価を行っていく。	A:令和4年度より高い成果があった	計画終了時の適正な評価に向けて、引き続き評価方法の開発について検討していく。